高等学校地理学習の野外調査

藤　原　須美子

編集の方から依頼があり，今回は学術的な色彩をもたせるようにしたいとのお話しでしたが，この稿は学術的とはほど遠く，異質のものになってしまうかも知れませんが，最近神奈川県教委主催による高等学校社会科研修会で，「野外調査について」というテーマを課せられ，発表の機会を得ましたので，高等学校の地理学習における野外調査の現状や問題点などについて二・三述べてみようと思います。

神奈川県社会科研究会地理部会のアンケートによれば，野外調査実施の現状は，解答延９５校中，「年により行なう（不定期）」学校２１，「修学旅行・日帰り旅行を活用する」学校３７で，これを合わせると全体の６１％を占めるという結果がでており，あまり実施されていないのが現状のようです。これは他県でも似たりよったりのようで，何らかの問題があるのではないでしょうか。

まず，高等学校の学習指導要領で野外調査がどのように扱われているかをみると，その解説篇に「３１年版では，内容の項目の一つに野外調査が含まれていた。これを「留意事項」に移したのは，野外調査を従前よりも軽視したものではけっしてない。……」と述べられている。中学校の学習指導要領では，内容２の(1)郷土に，「郷土におけるいくつかの地理的事象を選んで観察し調査させる……」と明確に示されているのに対し，高等学校では学習内容からはずされ，留意事項の中で取りあげられているということは地理教育上大きな問題であり，ここに高等学校の野外調査に対する一つの問題点があると考えられます。

しかし，地理学習にとって野外調査は不可欠のものであることは云うまでもなく，野外調査を指導計画の中に明確に位置づけ，意図的・計画的・効果的に実施しなければならないのではないでしょうか。

次に関係各校から提示された野外調査実施上の問題点をみると，「一人の教師で多数の生徒を指導するため徹底化が困難である」とか，「学校の所在地の関係で実施が困難である」などいろいろあげられていますが，「時間がない」というのが圧倒的に多くなっています。つまり改訂で３～５単位から３～４単位に減り，内容的にはむしろ増加していることが時間を生み出すことの困難な一因と考えられます。この多くの内容を消化し，かつ，野外調査も実施するというためには，学習内容を精選し，他教科・他科目との関連を考えて指導領域を明確にすることが肝要と思われます。

野外調査というものは，生徒の学習意欲を喚起し，地理的なものの見方・考え方を養うことが究極

の目的でありましょう。従って，それぞれの学校で目的・実状に即して，実施の時期・回数・内容の程度などをきめ，ただその実施にあたっては，明確な目的をもって，できるだけ焦点をしぼって行なうことが大切でしょう。教師の周到な準備と生徒の野外調査に対する必要感・意欲を充分喚起して実施し，更に事後の学習への発展をさせて行ったならば，効果的な野外調査となるのではないでしょうか。

以上釈　に説法ということになってしまいましたが，受験その他で地理教育がゆがめられがちな現在，私達は知識の切り売りに終らないよう地についた指導をしていきたいものと思います。

卒業して１０年

前　沢　智恵子

卒業してついに１０年を経過しました。学生時代には想像もつかない先の事のように思っていたのに，又自分では今だに自覚はしていないのですが，社会的レッテルは「中年女」なのかと思う此頃です。

先日クラス会に出席して久し振りに，おしゃべりを楽しみましたが，卒業１０年の具体的な状況とは，独身の人達は，欧米，東南亜の外国旅行を楽しみ，結婚した人達は，大体二子を得，上の子は就学と云う段階にあるようでした。一応独身もこぶつきも楽しからずやと云うところでしょうか，各々に自分の居場所が，社会の中に家庭の中に安定しているようで，商売柄ホッとしたものの，全く平穏無事と云うことではなく，問題はどの時代でもつきないのだと云う感じを受けました。

社会の仕組みも自分の能力の限界も分り，かと云って殊更に絶望とか劣等感と云う事も深刻ではないのです。が，家族と云う一つの社会集団と一般社会とのレベルの低い調和の具体的問題や，職場でのあるべき姿とある姿の問題，子供への接し方の問題など現実の生活の中の問題は数限りなく，その意味では現実生活の真中にいる年代と云う気はいたしました。何とか元気に皆やっていると云うのは反面全て卒業時のように感受性が敏感ではなくなったと云うことではないでしょうか？
働き盛りと中だるみは私達の相反する特徴のようです。

仕事を通じて思うことですが，女の人には自分の対象物（夫・子供）に自分の全てを注いでしまって，気がついた時は，自分のカッパのお皿の中の水は干上っていたと云うのがしばしばあるようです。エネルギー不滅の法則はないのですが，自分で自分のお皿の中の水を補給することも忘れられないことではないかと思うのです。忙がしい日常の中にいてはついつい忘れ勝ちなのですが。活動的で多忙な生活を持つ苦労の中でこの次の段階の本当の中年に入る時期を迎えているように思いました。